



7月17日は「理学療法の日」

活躍の場が広がる

理学療法士

7月17日は「理学療法の日」です。理学療法士(国家資格)は医学的リハビリテーションの専門家として、高齢者や手術後の運動機能回復に尽力する一方、スポーツ庁の全国体力テストなどで体力低下が指摘されている子どもたちの運動意欲の向上

や、支援学級に通う児童のサポートなどでも力を発揮することが求められています。岡山県理学療法士会も学校保健や特別支援教育の推進に注力を始めており、県内の理学療法士たちがさまざまな活動で貢献の輪を広げています。



さまざまな分野で活動中

一般社団法人
岡山県理学療法士会 國安 勝司 会長

「昨年、昨年の「理学療法の日」のあいさつ文に新型コロナウイルス感染症が収束することを願うと書いていたが、残念ながら今年も状況が大きく変わっていません。早く治療薬が開発されることを願っています。」

「理学療法の日」は1966(昭和41)年、理学療法士110人が日本

理学療法士協会を結成した7月17日にちなんで制定された。広く国民への理学療法士の啓発と、理学療法士自身の責任を再認識する日として。県内には約2000人の本会会員が存在し、さまざまな場所で高齢者や障がいのある方々のリハビリテーションを支えています。理学療法士の職域は時代とともに徐々に広がっています。「笑顔をあきらめない」。

子どもたちをサポート



幼保一体化施設に向き、子どもたちに運動を指導する金谷さん(奥)

運動通じ子どもの成長支援

一人一人の子どもの発達や成長に合わせた運動の支援などに取り組むNPO法人「プロボノリハビリテーションサービス」は岡山市内3カ所所で障がい児童所支援事業所を運営しています。同事業所の一つ「子ども発達LABO. Proリハ」(岡山市東区瀬戸町下)では理学療法士のノウハウを活用し、障がいの有無にかかわらず運動の段階に応じたプログラムを提供。子どもたちが「成長」を実感することで、運動好きになってもらえるよう取り組んでいます。室内

一人一人に適切指導

「背骨を意識して体を動かす」と。理学療法士の猪原圭一さんは毎週木曜、灘崎町総合公園(岡山市南区下岡)の多目的広場で、玉野光南高校のサッカー部員約80人に練習前のトレーニング指導を実施しています。大勢の部員たちが「棒」を背中背練になるように指導しています。

能力向上やけが予防

骨に当てるながらきびきびと動く光景は独特。体をしなやかに動かす感覚と対応する筋肉を鍛えるのが最適だといえます。日本スポーツ協会公認アスリート検定トレーナーの資格も持つ猪原さんはもともサッカー選手。現役時代からトレーナーとして、また生涯スポーツを楽しむ基礎づくりにもなればよいと考えています。部活動の支援のほか、学校を訪問してストレッチ講習会を開くなど学校保健の分野で理学療法士の活躍の場は広がっています。



高校生に背骨をしなやかに動かす感覚を指導する猪原さん(右)

トレーニングで競技支える

- 岡山県内の理学療法士養成校 (順不同)
- 4年制大学
 - 川崎医療福祉大学(倉敷市松島)
 - 吉備国際大学(高梁市伊賀町)
 - 岡山医療専門学校(岡山市北区大供)
- 4年制専門学校
 - 玉野総合医療専門学校(玉野市築港)
 - 朝日医療大学(岡山市北区幸道町)
- 3年制専門学校
 - 川崎リハビリテーション学院(倉敷市松島)
 - 倉敷リハビリテーション学院(倉敷市幸町)

企画・制作/山陽新聞社広告本部

理学療法士は健康と生活のサポーターです。